

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室別館(単位Ⅱ(ことのは別館))			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 7日		～	令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)	0
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 7日		～	令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の人数より職員の人数が多くなるような配置を取っている のでお子さんの小さなサインや、発達段階に合わせ個別に対応 できている。	室内が狭い環境ではあるが、職員は様々な工夫を日々行い児童 の安全を第一に受け入れしている。ペランダでの水遊びや、押 し入れでのごっこ遊び等子どもたちの好きな遊びが思うように できるよう相談しながら行っている。	保護者の方の困り感や、日々の子育ての中での相談を通し てお子さんの特性理解を深めていくため、より専門的なサ ポートができるよう、法人内の研修や情報共有の時間もしつ かりとっていく。
2	セラピスト(言語聴覚士、作業療法士)や保育士が多く常勤して おり専門的な視点での療育や、発達段階を評価しています。	言語聴覚士、作業療法士、保育がチームとなり様々な視点での 評価が可能。それぞれの専門分野を出し合いながら評価してい る。	日々コミュニケーションを円滑に行えるよう話す時間を意 識的に取るようにしてる。
3	ことばの教室ことのはとして、複数の姉妹教室を運営してお り、多くの言語聴覚士や理学療法士、作業療法士を含め支援の 方法などについて、議論や情報の共有などを行い、それぞれの 教室での支援へフィードバックしている。	月に2度オンラインで各教室を結び勉強会や意見交換、情報の 共有を行なっている。	教室間の職員の交換留学を行うことで、各教室の取り組み方 や運営方法など学び合うことで、更に良い支援へ繋げていけ るよう会社全体で取り組んでいる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋の狭さが弱みとしてあるが、下にこどもプラスがあること で場所を共有したり併用利用を促しやすい。また併用児童につ いては運動面の様子や集団の様子、個別の様子を共有しやすい 環境です。	児童の人数に合わせて室内遊具の配置も工夫していく。	建物上の事なので引き続きこどもプラスと連携し、より運動 面の必要な児童には併用利用をお勧めしていく。また外活動 では公園活動やお散歩も取り入れている。
2	保護者会の開催が難しい環境である。	部屋の狭さや、駐車場の確保も難しい。	公民館や地域の施設も借りて開催は行えそうだと考えてい る。こどもプラスと合同開催も検討している。
3	ご家族での送迎をお願いしている。	訓練内容をきちんと共有を行う為に担当した職員が面談にて 日々の状況を報告を行う為にご家族にて送り迎えを実施して もらい対面にて共有している。	ご家族が就労により開所の時間に間に合わないとの相談があ り、職員のシフトにて早めに受け入れを行う様にしている。